

[様式14]

(対象事業：4 地域振興と一体になったミュージアム事業)

事業名：大学が有する「ひと、もの、こと」を活用した  
アートタウン構想推進事業

事業者名：九州産業大学美術館

連携事業館名：

住所：福岡県福岡市東区松香台2-3-1

TEL：092-673-5160

FAX：092-673-5757

HPアドレス：<http://www.kyusan-u.ac.jp/ksumuseum/>



### ①施設概要

九州産業大学美術館は、九州産業大学芸術学部が30年来収集してきた作品を本学の芸術教育研究のみならず、地域の方々の生涯学習のための活動を行う拠点として、平成14年4月に常設の公共美術館として発足しました。

### ②事業の意図目的

九州産業大学の持つ「ひと、もの、こと」を十分に活用しながら、大学の社会貢献、大学生のキャリアデザインの形成、子どもたちの造形表現能力の育成支援等地域に開かれた、生涯学習の場としての大学づくりを推進します。

### ③事業概要

a) 「小さな芸術家になろう！」シリーズ ブックデザインをやってみよう

ーノートでつくるお気に入りの一冊ー

市販のノートをハードカバーに替え、装丁のデザインを行った。活字離れが叫ばれている昨今、日ごろ書店や図書館で見かけるハードカバーの装丁を自ら製作することで、本をより身近に感じてもらうことを目的とした。

b) 九州産業大学美術館開館5周年記念特別展ウィリアム・モリス展モリスと「理想の書物」

九州産業大学美術館開館5周年記念特別展として開催。講演会、ワークショップ第1弾として「アーツ・アンド・クラフト様式の製本」、ワークショップ第2弾として「ウィリアム・モリス展ツアーの本」を行った。

c) 「小さな芸術家になろう！」シリーズ 石こうアート～石こうで版画をつくろう～

ゴム板に石こうを流し込んで作る版画を行った。ゴムで版を作り、紙の代わりとして石こうをで作品を制作する。作品は壁掛けやマグネットなど、様々なアレンジができるようにした。

### ④事業の製作物及び報告書等

b) 事業の製作物 テキスト ワークシート

その他 (チラシ、ポスター、ポストカード、鑑賞ガイド小冊子、案内リーフレット、ワークショップ参加者募集チラシ、テープ綴じヴェラム装本、ウィリアム・モリス展ツアーの本)

作成した報告書等

ビデオ ( )

冊子 ( )

その他 ( )

### ⑤参加者状況

a) 参加者数 延べ 27 人 内訳 (小学生・中学生)

b) 参加者数 延べ 39 人 内訳 (小学生・中学生・大学生)

※展覧会入館者数 1,681人

c) 参加者数 延べ 28 人 内訳 (小学生・中学生)

a) (1) 事業の実施状況について

「小さな芸術家になろう！」シリーズ ブックデザインをやって  
みよう—ノートでつくるお気に入りの一冊—

実施日：平成19年7月22日(日)

内 容：市販のノートの表紙をはがし、厚紙などを使ってハードカバーにし、その表紙にビーズやラメのりなどで飾り付けする。学生ボランティアがほぼマンツーマンで子どもたちのサポートにあたった。完成した作品は展示し、保護者らとともに鑑賞した。

効果等：制作を通して初めて出会う大学生や学校も年齢も異なる子ども達と交流する場を提供できた。また、作品展示では保護者が作品の出来映えに驚き、大変関心を示していた。使用する道具や材料は文具店などで手軽に購入できるため、家族と一緒に制作し、家庭内でも創作活動を身近に感じてもらうことが期待できる。

(2) 地域との連携について

地域の小中学校へ広報物の送付を行い、広報活動の支援を依頼した。

(3) 成果物について

・参加者募集チラシ (A4サイズ)

広報物。児童・生徒へ配布してもらうため、地域の小中学校へ送付。

・ハードカバーのオリジナルノート (A5サイズ)

制作物。参加者が制作し、持ち帰った。

(4) 参加者の反応

「今日は、どんなところが楽しかったですか？」という質問に対する回答は『じぶんで、じゆうにつくれたところ』、『ビーズをくっつけるとき』、『ラメノリのぬるところ』などであった。

様々な材料から好きなものを選択し、楽しく制作できたのであろう。

さらに、「今日、あなたが一番うれしかったことはなんですか？」という質問では『友達ができただこと』という回答が多かった。学生と子どもの交流だけではなく、子ども同士の交流も充実した結果がこの回答に表れたのではないだろうか。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

はじめは少し緊張していた子ども達も同じ目線に立ち、優しく丁寧にサポートしてくれる学生ボランティアとすぐにうち解けていた。楽しく制作をしながら、本の構造についても学ぶことが出来たようだ。そして、芸術を志す学生ボランティアは、子ども達のあふれる個性に感化され、自身の創作活動への意欲向上に繋がっていた。



制作 (ノートと表紙の接着)



作品展示



参加者が制作したノート



b) (1) 事業の実施状況について

①展覧会『九州産業大学美術館開館5周年記念特別展

ウィリアム・モリス展 モリスと「理想の書物」』

実施日：平成19年11月23日（金・祝）～12月22日（土）

内 容：イギリス・ヴィクトリア朝の芸術家・思想家、ウィリアム・モリスがケルムスコット・プレスで制作した53部66冊（モリサワコレクション）を展示。11月22日（木）には、オープニングセレモニーと内覧会を実施した。

効果等：ウィリアム・モリスが残した数々のデザインは、隙間なく飾り立てられたヴィクトリア朝時代の華美さから脱却し、より計算された機能的な美を提示するものであり、その斬新さは、100年以上経った現在でも日常生活の中に生き続けている。今回の展覧会では刊本だけでなく、装飾文字の図案や、壁紙、自筆のサインなども展示した。来館者の方々にはモリスを身近に感じてもらい、モリスの人と芸術に対する理解を深めてもらえた。



チャーサー著作集を鑑賞する来館者

③講演会・ワークショップ第1弾「アーツ・アンド・クラフト様式の製本」

実施日：平成19年12月15日（土）

講 師：マーク・コックラム氏（英国デザイナーブックバインダーズ正会員）

内 容：大学生を対象とした講演会及びワークショップ。イギリスのヴェラム（羊皮紙）工場のスライドを用いてウィリアム・モリスが制作した「テープ綴じヴェラム装本」の製本方法について学んだ後、実際に本を制作した。



講師のレクチャーを受ける参加者

効果等：世界で活躍する装丁家の指導を直接受けられるとあって、はじめは緊張していた参加者も講師であるコックラム氏の装丁に対する熱意に感銘を受け、芸術活動と国際交流の推進に大きな役割を果たすことが出来たと思われる。



制作した本を持ってウィリアム・モリス展を鑑賞

④ワークショップ第2弾

「ウィリアム・モリス展ツアーの本」

実施日：平成19年12月16日（日）

講 師：マーク・コックラム氏（英国デザイナーブックバインダーズ正会員）  
國方みどり氏（英国デザイナーズブックバインダーズ正会員）

内 容：小中学生を対象としたワークショップ。製本用の針と糸を使って、「ウィリアム・モリス展」の鑑賞ガイドが印刷された本文を綴じるところから始め、ツアーガイドとなるハードカバーの本を制作。完成後に参加者全員でその本を見ながら「ウィリアム・モリス展」を鑑賞した。

効果等：講師の Cockram 氏はあつという間に子ども達の心をつかみ、中には通訳を介さずにボ  
ディランゲージで会話をしたり、片言の英語で話しかける子どもの姿も見られた。ま  
た学生ボランティアは作り方を教えるだけでなく、「マークさんに聞いてみようか」と子  
ども達と講師との交流を促す役割も務めていた。本づくりを経験したため「ウイ  
リアム・モリス展」もより興味を持って鑑賞出来たようである。

#### (2) 地域との連携について

地域の博物館・美術館及び小中学校へ広報物の送付を行い、広報活動の支援を依頼した。

#### (3) 成果物について

- ・チラシ（A4サイズ）：広報物。他美術館や地域情報紹介・交流スペースなどに掲示し  
てもらうため、送付。
- ・ポスター（B2サイズ）：広報物。他美術館や地域情報紹介・交流スペースなどに掲示  
してもらうため、送付。
- ・ポストカード（ハガキサイズ）：配布物。来館者などのため。
- ・鑑賞ガイド小冊子、案内リーフレット：配布物。来館者などのため。
- ・ワークショップ参加者募集チラシ（2種類）  
広報物。第1弾のワークショップ参加者募集チラシは本学学内に掲示。第2弾の参加者募集チ  
ラシは児童・生徒へ配布してもらうため、地域の小中学校へ送付。
- ・テープ綴じヴェラム装本：制作物。第1弾のワークショップ参加者（大学生）が制作。
- ・ウィリアム・モリス展ツアーの本（一折帖の製本）  
制作物。第2弾のワークショップ参加者（小中学生）が制作。

#### (4) 参加者の反応

今回の展覧会は、欠本や複写本などがなく、53部66冊が完全に揃う貴重な機会であったため、  
アンケートでは、「実際にウィリアム・モリス氏の作品を目にする機会は今回が初めての事でした  
ので、非常に興味深く見させて頂きました。」「このような大量のウィリアム・モリスの作品を  
ゆっくり見ることが出来て満足です。」などに回答を得た。

ワークショップに参加した学生は「卒業制作で本を作ろうと思っていたので参考にし  
たいと思います。自主制作でも忘れないように作りたいと思っています」と回答している。

また、小中学生の回答には「わざわざイギリスから来ていただいて、ありがとうございました。マ  
ーク・コックラムさんのジョークはおもしろかったです」、「もしかしたら将来、マークさんの  
工房に見習いにいくかもしれません、そのときはよろしくおねがいします」といったものがあ  
った。

#### (5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

展覧会には九州だけでなく、遠方から来館される方々も非常に多かった。中にはモリスや、ヴィ  
クトリア朝作家の研究をされている方や、カリグラフィーを学んでいる方など、研究者も多く来館  
した。アンケートには「今迄、何気なく見ていた字体が気になり始めた。」「はやく絵が描きた  
くなった」という意見も得られ、芸術に対する意識の向上を図れたように思われる。また、海外の  
講師から芸術を学ぶということは、日ごろの授業や生活ではなかなか経験することが出来ない。  
そのような経験の場を学生や地域の子どもたちに提供し、芸術活動への意識向上、国際交流・異文  
化理解の促進へ大きな効果を及ぼした。



c) (1) 事業の実施状況について

「小さな芸術家になろう！」シリーズ 「石こうアート ～石こうで版画を作ろう！～」

実施日：平成20年2月24日（日）

内 容：ゴム板で版を作り、その版に石こうに流し込んで版画を作るワークショップを開催した。

効果等：普段なかなか使用することのない石こうを今回のワークショップの材料に取り入れたことで、子ども達が石こうの溶かし方などに苦戦するのではないかと懸念されたが、学生たちがマンツーマンでサポートして彫刻刀や石こうの扱い方を指導していたため、子ども達みんなが作品を完成させることができた。

子ども達へのアンケートで、「また参加したいですか」の問いにも9割の子どもが「はい」と答えた。

今回のワークショップで石こうを身近に感じてもらえたようだ。

(2) 地域との連携について

地域の小中学校へ広報物の送付、九産大スイミングクラブへのチラシ配布を行い、広報活動の支援を依頼した。

(3) 成果物について

- ・ワークショップ参加者募集チラシ
- ・作品（壁掛け、マグネット）

(4) 参加者の反応

「今日はどんなところが楽しかったですか」との問いに対する回答を見ると「石こうを流したところ」、「ゴム板を彫るところ」など制作に関する回答が多いものの「先生(学生)たちと話ができしたこと」、「むずかしいところをみんなで助けあったところ」、「班のコミュニケーションがおもしろかった」などといった、学生やまわりの友達との交流が印象に残っているという回答も多かった。普段なかなか接することのない大学のおにいさん、おねえさんと一緒に、コミュニケーションをとりながら版画を作る楽しさや、将来の夢などを話すということは、子ども達にとってとても充実した時間となったようである。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

今回のワークショップでは、制作時にレクチャーを取り入れたが、興味津々にレクチャーを見ている子ども達の目の輝きはとても印象的であった。

学校も年齢も異なる子ども達どうしが、制作活動を行いながら互いの制作に対する姿勢や、考えに触れることで、制作意欲の向上につながり、それぞれが個性的な作品を完成させていた。学生においては、制作中の子どもたちの集中力や最後まで妥協せずに作品を完成させる姿、モノを作り出す発想力に感化されていたようだった。



彫刻刀のレクチャー



作品の完成

(6) 新聞記事等  
○新聞記事

## ぼくらは小さな芸術家

福岡市東区松香の九州産業大学付属小中学校を対等に個性教育プログラム事業「小さな芸術家」をテーマに開催した。芸術学部を持つ同大の特徴を生かし、小学校の園児工作では経験出来ない造形表現の楽しさを広げ、年々増加している児童の芸術的創造性を育む。地域の小中学生約30人が、ハードカバーの本作り体験をした。

本は、市販のノットを利用して作った。参加者は8班に分かれ、子ども一人一人がデザインしたイラストを、ボンドで貼って、本を開くと、市販のノットが、イラストの表紙と中身を、それぞれ、ボンドで貼って、本の形になる。ハードカバーの本を作る。ハードカバーの本を作る。ハードカバーの本を作る。

作品を手にする児童



ハードカバーの本でできた

九座大美術館 学生の指導受け



ハードカバーの飾り付けをする児童

最後に下書きしたデザインを、色紙、ビーズ、色鉛筆、ペン、ラミネート、ボンド、リボン、フェルトなどを自由に使って、ハードカバーの飾り付けを行った。児童たちは、市販の動物、花などをデザインした作品を完成させた。

香取小3年、松香小3年、田中君は、市販のイラストをデザインして、自由紙として大切にしたい」と話していた。

a) 読売新聞 平成19年8月4日 (よみうりかわらばん) 福岡東部

## 本のカバーこう作るんだ

福岡市東区松香の九州産業大は、読売新聞で開催した「ウイリアム・モリス展」に合わせ、イギリス・ロンドンで活躍したデザイナーのウィリアム・モリスの作品をテーマにした本作りワークショップを開催した。

講師は、英国デザイナーアックバイン・ターズ正会員で、英国製本家協会のメンバー、コックラムさんと、福岡市在住のデザイナー、田中君。同大美術学部の学生20人が事前に参加費を払い、参加の児童ら19人の本作りを支援した。

本作りは、モリスのデザインが書かれた22の絵に、モリスの美しい花柄の本に似せたハードカバーの「ウイリアム・モリス展」の本作り体験をした。



リマカミタさん

ワークショップを見た後、子どもたちは学生に教わりながら、自身の二つ折りの紙に、模写したモリスのデザインを、自由に貼り付け、本作りが完了した。モリスのデザインを模写し、硬質紙に貼った。田中君は、市販の動物、花などをデザインした作品を完成させた。

b) 読売新聞 平成19年12月29日 (よみうりかわらばん) 福岡東部



石膏流して版画 できたかな

福岡市東区松香の九州産業大は、読売新聞で開催した「ウイリアム・モリス展」に合わせ、イギリス・ロンドンで活躍したデザイナーのウィリアム・モリスの作品をテーマにした本作りワークショップを開催した。

## 同様の新聞記事

- a) 読売新聞 平成19年6月12日 朝刊 35面  
読売新聞 平成19年6月23日  
(よみうりかわらばん) 福岡東部  
朝日新聞 平成19年6月27日 朝刊 23面
- b) 朝日新聞 平成19年11月21日 夕刊  
毎日新聞 平成19年11月25日 朝刊  
日本経済新聞 平成19年11月28日 夕刊  
西日本新聞 平成19年11月29日 夕刊  
朝日新聞 平成19年12月5日 夕刊  
西日本新聞 平成19年12月6日 朝刊  
読売新聞 平成19年11月17日  
(よみうりかわらばん) 福岡東部
- c) 読売新聞 平成19年3月8日  
(よみうりかわらばん) 福岡東部

朝日新聞 平成19年2月25日  
朝刊 31面 福岡都市圏